

2017.08.11

「また誘われてしまったスイス」

山本 浩（昭 29・政経）

1. どうして何度もスイスなのか

昨年暮れにスイスの旅の反省会をしたとき、来年もスイスへの話には正直のところ大して気乗りがしなかった。

既にスイスの旅は3度経験しているし、去年は体力の低下等で同行メンバーに些か迷惑を掛けたこともこの話に積極的に乗れなかった原因だったと思う。

ところが年が変わってこの話の行程スケジュールなどがだんだん具体化してくると、かつて私がスイスを旅した際に、出来れば行ってみたかったのに行けず残念と思っていた場所がずらずと品揃えされているではないか。

ルガーノの山を歩いた時、少し北のベリンツオーナへ行って世界遺産の中世古城群を見る選択肢もあった。

チューリッヒから車でサンモリッツへ向かう際、雨の中スイス最古の街クールを何も見ずに走り抜けてしまった。

ローヌ川沿いからレマン湖の北を通ってジュネーヴに到る路線は何度も利用しながら氷河特急のロマンスカーに乗った経験はないし、モントルーの西に広がる世界遺産、ラヴォー地区の葡萄畑を歩いたことがない。

サンゴッタルド峠の根拠地で架橋不可能と思われたロイス川渓谷に架かる「悪魔の橋」を擁するアンデルマットには是非行ってみたかった。

イタリア領マコニャーガからモンテモロ峠を越えてヨーロッパ最大の人造湖マットマルクダム・スタウゼーへ下りる予定は氷雪のガラ場下りの危険から中止になってしまったが、せめてこの峠やダムを見渡せる所を歩いてみたい。

サースフェーではホーサースの展望台には上がったが、サースフェー最高所展望台 3,500m のミッテルアラリンに上がってフェー氷河の迫力を身近に感じてみたい。

これらが私の過去のスイス旅行の中で心残りとなっているものの代表格なのだが、今回の行程はこの殆どすべてが組み込まれていて、入っていないものも実現可能な枠組みになっている。

確かめたわけではないが、これは私の愚痴めいた話を耳にしたガイドの志波さんと何時も参加メンバーの窓口役の水沢清美さんによって仕組まれたことに違いない。

ここまで狙い撃ちされては参加しないわけにはいかず、皆のお荷物になる不安も顧みず家内と共に参加する申し出をした。

今回の参加者 11 名の平均年齢は約 77 歳だが、今年 87 歳を迎える私が全体の平均を 1 歳押し上げてしまっているのだから厄介な参加者である自覚はしっかり持たねばならない。

然し今回は何度も訪ねるスイスといった心のゆるみからか出発が迫っても旅の準備をしっかりする気になれず、これが旅行中幾つかの失敗を重ねる原因になったことは後述する。

【7月12日（水）】

出発は7月12日、と言っても日付が変わった直後真夜中に出発だから羽田の集合は前日の午後9時30分、昨年と同じカタール航空だ。

スイスはヨーロッパでユーロが使えない数少ない国なので出発前にスイスフランCHFを用意する、対円レートは¥123.11だった。

夜中の羽田空港で気づいたことは飲食店だけは遅くなっても開いているのに、一般のお店の殆どは午後10時で閉店、出発便は深夜でもあるのだからせめて旅行用品や薬の店は開いていてほしかった。



QR813 便、01 時 10 分テイクオフ、ドーハへ向けて 10 時間 40 分の予定、この路線は JAL との共同運航で日本人アテンダントが 3 名乗務しているとのことだったが、我らエコノミークラスへの巡回はほとんどなかった。

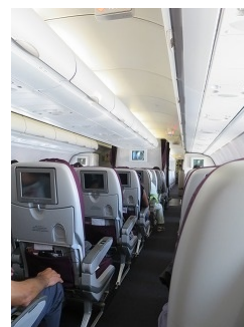
エミレーツ同様イスラム圏の飛行機なので、目の前のディスプレイには定期的にメッカの方角と距離が示されるし、食事のメニューには「全ての食事はイスラムの原理によって準備される」とあるので豚は当然ダメ、牛は高い、肉類の殆どはチキンになってしまう。



お祈りは座席で



メッカの方角



機内

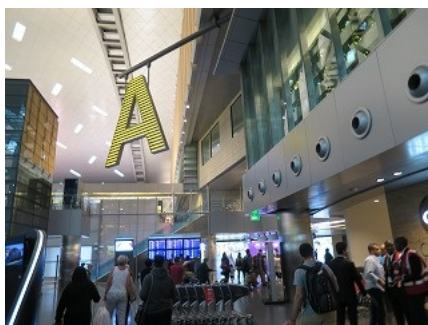
一度家内が、食欲がないと食事を断ったらお粥 Congee はどうかと勧められ結構配慮していると少し感心した。

今回、今までと一寸違っていたことは、イスラム教徒の地面にひれ伏すお祈りの姿から、見たわけではないが機内でもそうするらしく、これは危険なので座席についたままお祈りするようにとテロップが流れていたことだ。

ドーハ経由でミラノ・マルペンサ空港 13 時着、時差 7 時間（サマータイム）、東京からの所要時間 19 時間、飛行機の旅はキツイと判ってはいるがやはり地上に降り立った時の解放感は何とも言えない。



ミラノ上空



ミラノ空港



ベンツワゴン車



中世の路地

志波ガイド手配の車がなかなか来ないので待つ間空港内をうろうろ、イタリアだけの蒸留酒「グランプ」を探したが見つからない、諦めてカードで水を一本買った（ユーロの手持ちがないので）。

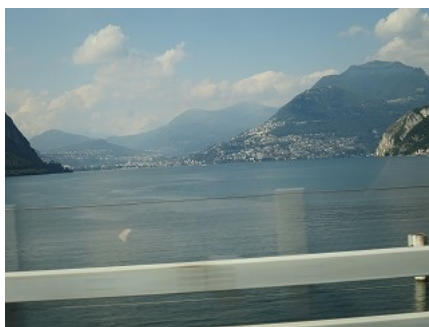
やっと来たベンツのワゴン車で出発できたのは 15 時 30 分、コモ湖をかすめてスイスに入るが、途中高速に入るまで遠くから来た我らのことを思っただライバーは中世の雰囲気を残す狭い路地を懸命に走ってくれたがどの経路だったのか全く分からない。

2. 中世の城塞都市ベリンツオーナ

国境を越えてルガーノ湖畔は 3 年前に訪れた懐かしい景色、さらに北上して 17 時 15 分ベリンツオーナの駅前ホテル Hotel&Internazionale Bellinzona へ到着した。



イタリア・スイス国境



ルガーノ湖



ベリンツォーナ近し

ベリンツォーナは標高 238m、スイス最南ティチーノ州の州都（イタリア語圏）でアルプス越え交通の要衝、戦略の拠点、紀元前 1 世紀のローマ軍駐屯以来幾多の支配勢力が城砦を築き守りを固めたが、13～15 世紀に築かれた 3 つの城砦、城壁は現存する中世の貴重なモデルとして 2000 年に世界遺産登録されている。

志波ガイドから明日のスケジュールを楽にするため今から 3 城砦中最大のカステルグランデ Castelgrande（大城）を見に行きたいと提案され、荷物を部屋において直ちに出発、ホテルから南西に約 700m、13 世紀に建てられた 2 本の塔のある巨城で、有難いことにリフトで上に上がることができる。上には広大な緑の広場があり太い栗の木も植えられていた。

ここからの景観は素晴らしく手前に参事会教会 LaCollegiata のある街並みから山の中腹にモンテベッロ城 Castello di Montebello（小城）、更に上には見張り役のサッソ・コルバロ城 Castello di Sasso Corbaro が見える。



ホテルフロント



カステルグランデ



参事会教会を見下ろす

そしてカステルグランデとモンテベッロの間は幅 5m の防壁ムラータ Murata で結ばれ堀や跳ね橋などで堅固な防御を誇っていたという。

我らはこの城のレストランで夕食をとることにしたが、食堂が城壁から張り出した葡萄棚のテラスにあるとは何ともお洒落で心地よい。

先ず飲んだビールの銘柄はゴッタルド Gottardo、あのゴッタルドトンネルの労働者らしき図柄のラベルが印象的だ。



大きな栗の木が



ゴッタルドビール



モンテベッロ城、上にサッソ・コルバロ城

城の周辺にも葡萄畑を多く見かけるがティチーノはスイスでもワインの産地の一つで、飲んだワインは地元そのままの銘柄ベリンツォーナだった。

ホテルに帰り着いたのは21時だったが、スーツケースを開いてみてとんでもない失敗に気が付いた。

変圧器はあるのにカメラ用電池の充電器がない、今カメラに入っている電池のほかに予備電池2個が全て、これでは帰国するまで思うように写真を撮ることは絶対に不可能だ。

毎年の例からすると1週間の現地滞在中に1,200枚くらい撮りまくって、帰国してからその写真とメモ、資料を突き合わせながら紀行文を書いていた。

つまり写真は滞在中の時系列を思い出させる極めて大事な資料なのにこれが欠落してしまうことは大変な痛手になる。

出発前旅行準備に緊張感がなかった結果だが、泣きごとを言ってもしょうがないので、今回は料理、花、人は極力撮ることを我慢し、同じ場面は1ショットで済ませると自分に言い聞かせて寝につく。

【7月13日（木）】

今日はベリンツォーナの見学後ポストバスで古都クール、更に電車で1,000m以上高所にあるアローザまでという長くて中身の濃い旅になる。

8時にホテル出発、15分歩いて先ず中心部にある参事会教会 LaCollegiata 訪問、市庁舎 Municipio の右手から聖母マリア教会へと進む、旧教と新教の違いか装飾的と簡素な造りが好対照だ。

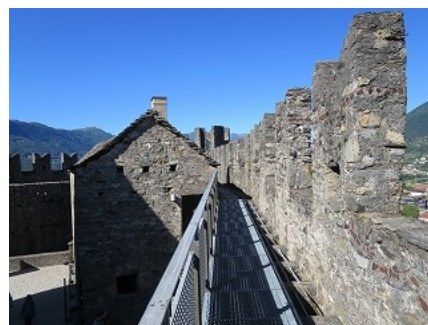
ベリンツォーナの3つの城の内最も見応えがあるとされているモンテベッロ城 Castello di Montebello へは建物の狭い間をすり抜けて石段と山道を暫し登らねばならなかった。



モンテベッロ城への狭い路



正面にカステルグランデ



長い城壁

西方真下に参事会教会、その向こうに昨日のカステルグランデはレストランの葡萄棚テラスまではっきり見える、そして南東の山地中腹にもう一つの見張り役だったサッソ・コルバロ城 Castello di Sasso Corbaro が見えている。

城壁の狭い通路を一巡しながら景色を楽しんだが、イタリアとヨーロッパ中央を結ぶ要衝にあり歴代の支配者の下で要塞化を進めたベリンツオーナはアルプスとアルムに囲まれたスイスの通常のイメージとは違った歴史ロマンを感じさせる所だった。

バスの時間があるので下山して Salita Castello di Montebello で昼食、スーツケースを曳いてベリンツオーナ駅前のバス停へ向かう。

オレンジ色のメルヘンチックな駅舎を後に 12 時 40 分、2 階建てのポストバスでベリンツオーナを後にする、結構お客は多い。



オレンジ色の駅舎



ヒンターライン

出発してすぐゴットハルド Gotthard への道を左に分け、ひたすら北へ向かって高度を上げる。

メソルチナ谷 Valle Mesolcina を詰めて 13 時 25 分サン・ベルナルディーノ到着、10 分間唯一のトイレ休憩をとる。

此のすぐ先がサン・ベルナルディーノ峠 Passo di S. Bernardino 2,065m、南はポー川から地中海、北はライン川から北海へ流れ落る大分水嶺になっている。

再び出発して直ぐ峠の下に入るトンネルは標高 1,644m、幅員 7.2m 2 車線、総延長 6,596m で 1967 年に完成している。

ここから下ってヒンターライン川沿いを暫く走りスプリューゲン Splügen からマラ谷 via Mara に入ってトゥージス Thusis、ライヘナウ Reichenau でライン川本流に合流、14 時 45 分クール Chur に到着した。

3. スイス最古の都市クールからアローザへ

クールは 4 年前、サンモリッツからベルニナアルプスを旅した際、チューリッヒから雨の中を車で通り抜けたことがあり、5,000 年の歴史を持つスイス最古の町を素通りしたことを残念に思っていた。

クールはグラウビュンデン州の州都だが、古代からアルプス越えのメインルートであり、ライン川に接している防衛上の拠点でもあったので紀元前 15 年にはローマ軍が占拠してこの地を「クリア・レートリウム Curia Raetorum と名付けたのがクールの語源だという。

更に古さを示すものとして、この地方の言語で最も多いのはドイツ語、次いでイタリア語だが、スイス全体では 1% にも満たない公用語のロマンシュ語があり、これは古代ローマ時代の言語に最も近いラテン語に起源をもつ独立言語と云われている。

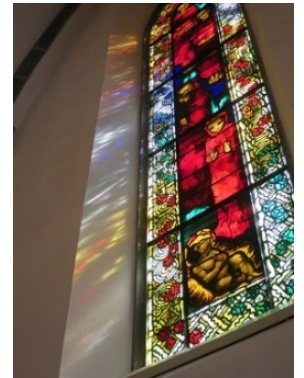
スーツケースを駅に預けて街に出る、ポスト広場 Postplatz の手前にレーティッシュ鉄道本社と州立美術館、更にポスト通りを南下すると 1464 年建設の古風な市庁舎 Rathaus、聖マルティン教会 Kirche St.Martin と続く。



レーティッシュ鉄道本社



古風な市庁舎



ジャコメッティのステンドグラス

この教会は 8 世紀のカロリング時代の教会の跡に 1491 年建設のプロテスタント教会で、入り口右側に掲げられた 3 枚のステンドグラスはスイスの国民的芸術家アルベルト・ジャコメッティ Alberto Giacometti の作品である。

クールは 1966 年ジャコメッティ終焉の地で、100 スイスフラン紙幣の表面に彼の肖像、裏面に作品「歩く男」が印刷されている、又この時日本では国立新美術館創館 10 周年記念ジャコメッティ回顧展が開かれていたことを帰国後に知って慌てて見に行ったものである。

ベーレンロッホというロマンチックな地域にあるキルヒ通りの坂道を登った小高い丘は先史時代から人が住み、ローマ軍が砦とした場所だが、此处に 5 世紀の聖堂を前身として 12 世紀から 13 世紀にかけて建立されたローマンカトリック大聖堂 Kathedrale がある。

国の重要文化財で豪華な祭壇、目を見張る天井絵など素晴らしいが、入り口扉上の釈迦三尊のようなマリア様のファサードが印象的だった。

中世の雰囲気一杯のクールに名残は尽きなかったが、17 時 05 分レーティッシュ鉄道アローザ線に乗る。この路線は 1914 年アローザ鉄道として開通したが、1942 年レーティッシュ鉄道に吸収合併、クールからアローザまで 26km、標高差 1,236m を 1 時間 03 分で登る。



大聖堂へ登る



マリア様のファサード



ジャコメッティ展

クールを出発して先程歩いた旧市街の横を路面電車のように走り、やがて山々に囲まれたシャンフィック谷へ入って行く。

ラングヴィース駅の先にプレスール川を右岸から左岸に渡る美しいアーチの跨線橋があるが、この橋は全長 287m、峡谷からの高さ 62m、コンクリート製で中央部のアーチスパン 92m のラング

ヴィース橋 Langwieser Viaduct で 1912 年から 14 年にかけて造られた貴重な鉄道遺産である。

18 時 09 分アローザ駅到着、山側へ少し歩いて同 25 分今日から 3 泊するアローザフェッターホテル Arosa Vetter Hotel に入ることが出来た。



アローザマップ



レーティッシュ鉄道アローザ線



ラングヴィース橋

今日は移動距離が長くスケジュール満杯でかなり疲れが出たようで折角のディナーにも食欲がなく、咳が止まらず熱も出てきた、ネックウォーマーを首に巻いて早々にベッドインしたが、明日からが思い遣られる。

(Part 2 へ続く)